

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
現代科学 (地球科学)	平成28年度	小松・安藤	4	前期	学修単位2	選択必修

[授業のねらい] 私達が当たり前のように暮すこの地球は、生命体の生存に適した奇跡とも言えるバランスを保つ“かけがいのない惑星”である。この授業では、地球というシステムに対する基礎知識を身につけると共に、身近な気象現象について理解を深め、現在直面している様々な環境問題・防災への取り組みに対して自ら考える力を養っていくことを目標とする。

<p>[授業の内容] この授業の内容は全て学習・教育到達目標(B) <基礎> および JABEE 基準 1(2)(c)に対応する。 下記の項目を中心に授業を進める予定である。</p> <p>第1週 はじめにー三重県の気象ー</p> <p>第2週 地球の歴史</p> <p>第3週 地球大気鉛直構造</p> <p>第4週 地球の熱収支</p> <p>第5週 大気と海洋の流れ</p> <p>第6週 高気圧と低気圧</p> <p>第7週 豪雨と渇水</p> <p>第8週 地震と津波</p>	<p>第9週 中間試験</p> <p>第10週 環境問題の歴史</p> <p>第11週 地球温暖化</p> <p>第12週 大気汚染と酸性雨</p> <p>第13週 水域の環境汚染</p> <p>第14週 森林破壊と生物多様性</p> <p>第15週 おわりにー気候研究の最前線ー</p>
---	--

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 地球の誕生と大気の組成について考え理解している。</p> <p>2. 大気・海洋の構造と運動について考え理解している。</p> <p>3. 大気・海洋・陸地の相互作用について考え理解している。</p>	<p>4. 自然災害のしくみについて考え理解している。</p> <p>5. 異常気象や地球温暖化のしくみについて考え理解している。</p> <p>6. 身近な日々の気象現象について考え理解している。</p> <p>7. 様々な地球環境問題・防災について考え理解している。</p>
--	---

<p>[この授業の達成目標]</p> <p>地球システムのしくみ、その変動と相互作用、自然災害、さらに身近な気象現象について理解を深め、地球と人間の関わりについて考えることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>地球科学に関する「知識・能力」1～7の確認をレポートおよび中間試験、期末試験で行う。1～7に関する重みは同じである。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
---	--

[注意事項] 講義の内容を聞いて、各自が実際に自分自身で考えてみることに重点をおく。理解を深めるため、レポート課題を適宜与える。授業中の私語は厳禁とする。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]

物理、化学、数学の基礎を理解しておくこと。

[自己学習] 授業で保証する学習時間と、予習・復習(中間試験、定期試験のための学習も含む)及びレポート作成に必要な標準的な学習時間の総計が、45時間以上に相当する学習内容である。

教科書: 特に指定しない。

参考書: 講義の中で必要に応じて紹介する。

[学業成績の評価方法および評価基準]

レポートを30%、中間試験・期末試験を70%の割合で加えたもので評価する。

[単位修得要件]

与えられたレポート課題を全て提出し、学業成績で60点以上を取得すること。